

報告者：久木留 毅（文学部教授）

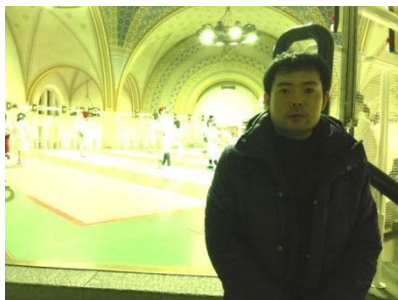
■ラフバラ大学研究拠点活動報告

No.16

1月16日(木)

■ハンガリー・ブタペスト調査研究

ハンガリー・ブタペストにおいてフェンシング指導者研修を実施中の和田さんとのコミュニケーションと研修場の視察を実施した。英国にいるメリットは、多くのヨーロッパ諸国へ日帰りで調査に行けることである。



1月17日(金)

■2012 ロンドン大会 レガシーiCITY 視察

3つの建物からなるiCITY内を視察。2015年秋季に開校されるラフバラ大学ロンドンキャンパスが入る場所についても視察を実施することが出来た。



■英国大使館およびその他在英独法組織とのミーティング

2012年ロンドン大会のレガシーに関する情報交換を実施した。

1月20日(月)

■ラグビーイングランド代表チーム（デベロップメント層）キャンプ視察 1



今週から2週間に渡りラフバラ大学内にてキャンプを実施しているラグビーイングランド代表チーム（デベロップメント層）を視察した。本日はメンタルサポートスタッフとの雑談から水曜日の練習試合等、多くの情報を得ることができた。

報告者：久木留 毅（文学部教授）

### 1月21日(火)

#### ■ラフバラ大学スタッフとのミーティング

アスリートライフサポート担当のサイモン(SDC所属)に、ラフバラ大学の現状についてヒアリング調査を行った。Talent Athlete Scholarship Scheme(TASS)の捉え方は、大学間に差があることが理解できた。

#### ■ラフバラ大学日本人留学生を対象とした情報提供

今回は英国柔道の調査で来英中の全日本柔道連盟理事の田辺陽子さん(日本大学教員)から、英国柔道連盟における指導者講習会について情報提供を頂き質問およびディスカッションを実施した。



### 1月22日(水)

#### ■ラングビーイングランド代表チーム(デベロップメント層)キャンプ視察2



レスタータイガース(アカデミー)との練習試合を見学。タイガースフォワードのウォーミングアップには、レスリングが取り入れられていた。その他の試合前の練習も共同で実施し興味深かった。

元 UK Sport R&I 部門リーダー スコット・ドロワーと再会し今後の情報交換を約束した。



### 1月23日(木)

#### ■ラフバラ大学スタッフとのミーティング

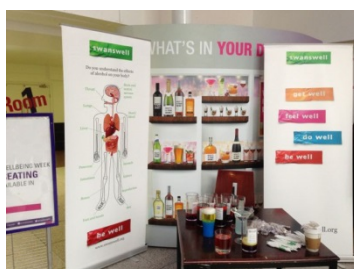


ボランティアアカデミー担当のローラ・ヒリヤード(SDC所属)に、ラフバラ大学の現状についてヒアリング調査を行った。ラフバラ大学には、スポーツ系アカデミー(学生主体)として、ボランティアアカデミーとコーチングアカデミーの二つがある。ボランティアアカデミーについては、2020年東京大会への情報提供としても有益であった。

### 1月29日(水)

#### ■Health Wellbeing イベント視察

様々な Health Wellbeing 関係の企業が出展し学生および教職員への広報活動を実施。



報告者：久木留 毅（文学部教授）

### 1月30日(木)

#### ■第9回在英日本人研究者の会 JSPS(日本学術振興会)参加

医科学、社会科学の研究者とネットワークを結ぶには良い機会である。UK Sport のリサーチ&イノベーションを参考に日本独自のアイデアを考えるにも良い機会であった。



#### ■The Japan Society 主催の『2020Vision’ : insight from the London 2012 Games (Paul Deighton)』に参加

LOCOG CEO であり、現英国財務省副大臣・商務担当政務官である Deighton 氏の話しは、今後の 2020 年東京大会にも参考となるものであった。日本大使館、日本のメディアを含めて日本人の参加者も少なくなかった。



### 1月31日(金)

#### ■ Morgan JACQUEMIN (INSEP : Deputy of the International Relation Unit) とのミーティング

昨年 12 月に INSEP で会った Morgan JACQUEMIN とロンドンにてミーティングを実施した。フランスは今後 2024 年夏季オリンピック招致に立候補を考えている。その意味から有益な情報交換となった。

#### まとめ

2014 年に入り日本では 2020 年東京大会の組織委員会が発足した。その中で英国にいるスポーツ関係者として、諸外国組織および関係者とのネットワークを構築し情報収集を行うと同時に、情報の精査にも努める必要性を感じている。さらに、日本側に求められていることを把握した上で英国在住の日本の関係組織および関係者とネットワークを構築し、連携を実施していくことも重要である。